

どぼく

散歩 1



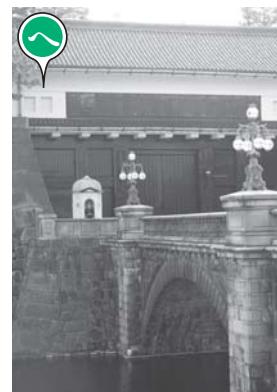
~丸の内~

東京都内の土木遺構と人気のエリアを訪ねる「どぼく散歩」。毎回、以外と見落としがちな貴重なスポットをご紹介していきます。第1回は丸の内。言わずと知れた国内最大級のオフィス街ですが、目を凝らして見ると意外な発見が。見て、触れて、歴史の息づかいを感じてみてください。さっそく東京駅から行幸通りを西へ皇居外苑を巡り、八重洲側へと抜ける土木プロムナードをたどっていきましょう。



●交番

二重橋の近くにある可愛らしい交番?そのプレートには「警視庁丸の内署祝田町見張所」とありました。



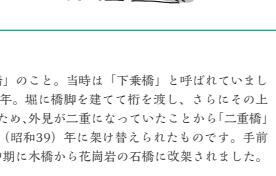
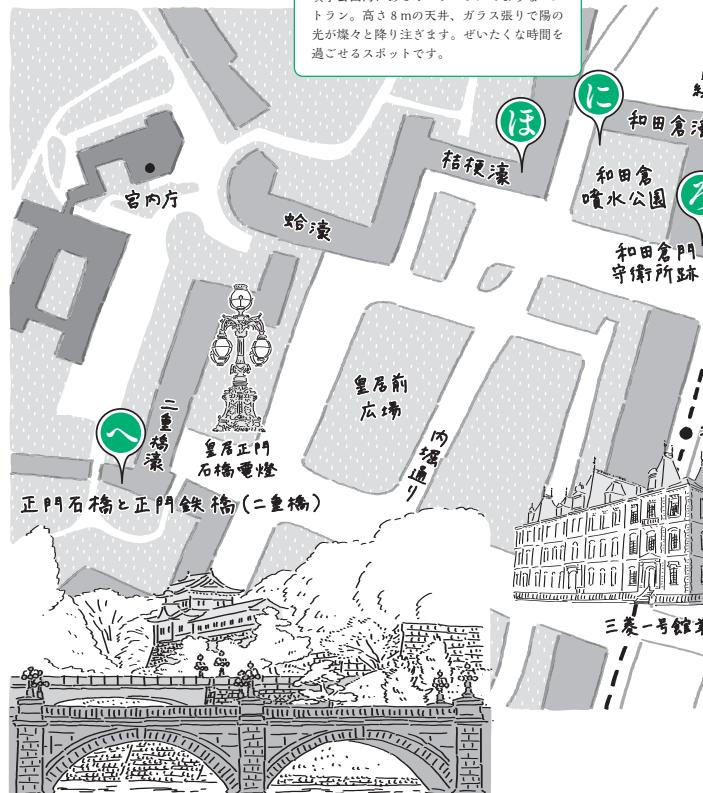
●二重橋

本来の二重橋とは石橋の奥にある「正門鉄橋」のこと。当時は「下乗橋」と呼ばれていました。最初に架けられたのは1614（慶長19）年。堀に橋脚を建てて桁を渡し、さらにその上に別の橋脚を建て、通行できる桁橋を架けたため、外見が二重になっていたことから「二重橋」の名がついていたとか。現在の鉄橋は1964（昭和39）年に架け替えられたものです。手前の石造りの橋は「大手橋」。こちらも明治中期に木橋から花崗岩の石橋に改築されました。



●和田倉噴水公園レストラン

噴水公園内にあるオペラハウスのようなレストラン。高さ8mの天井、ガラス張りで陽の光が差々と降り注ぎます。せいたくな時間を過ごせるスポットです。



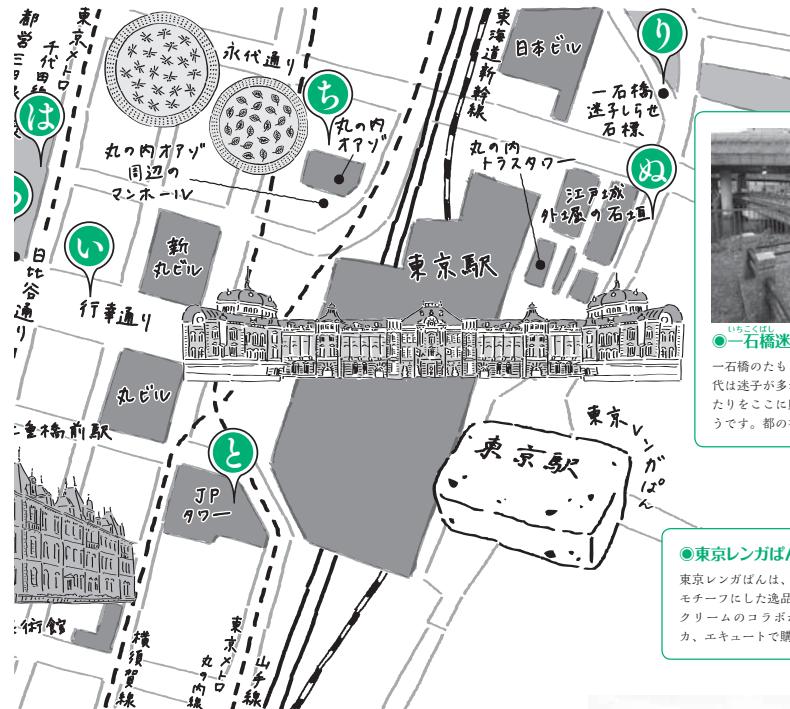
●行幸通り

行幸通りは「みゆきさどおり」と読まれることもありますが、正式には「東京都道404号皇居前東京停車場線」という路名でした。シンボルの銀杏並木は、東京駅や丸ビルといった高層ビルを背景とした景観、あるいは反対側の皇居方面に開けた眺望と、異なる風情を楽しむことができます。大都市東京屈指の紅葉ビュースポットです。



●石橋迷子知らせ石標

一石橋のたもとにある石標。この界隈、江戸時代は迷子が多かったようで。尋ね人や逆に心当たりをここに貼り出して情報交換をしていたようです。都の有形文化財に指定されています。



●JPタワー

平成24年に旧東京中央郵便局の跡地に竣工した複合ビル。低層階は当時の局舎が一部保存、再生しています。この6階の屋上庭園からは東京駅が一望。なかなか見られない景観と出会えます。



どぼく 散歩① ~丸の内~

■生まれ変わった東京駅丸の内側の玄関口

東京駅のコンコースを丸の内方面に向かいます。ビジネスマンや観光客で、まっすぐに歩くことも難しいほどの混雑ぶり。なにしろ一日の乗降客数が43万人を超える、屈指的巨大駅ですから。行き交う人の足の速さも、1割り増しになる印象があります。

丸の内の出口から駅外郊にでると、その開放感に驚かされます。昨年の暮れに再整備を終えたばかりの丸の内駅前広場は、構内とは打って変わって人影もまばら。以前は道路やロータリーで占められていたエリアが、現在は御影石で覆われ、その白さは目にまぶしいほどです。工事中に地中から鋼材が見つかり、工法を変更したため竣工は半年以上延期されました。今は広々とした気持ちのいい広場として生まれ変わりました。



和田倉門守衛所跡

皇居側に向かって延びる遊歩道は、広場とともに生まれ変わった「行幸通り」。幅員70mを超える通りには御影石が敷設され、そのため広場と歩道の境目が曖昧で、この一体的なレイアウトがさらに開放的な印象を高めています。

行幸通りは、1923（大正12）年の関東大震災の復興事業として整備され皇室の公式行事や、外国大使の信



和田倉橋



和田倉噴水公園

任状捧呈の際に仕立てられる馬車列の通路などとして使われます。秋には見事に色づいた銀杏並木が人気のスポットでもあります。

■皇居外苑と東京駅前をつなぐ新旧の橋

遊歩道を西に向かい、日比谷通りの和田倉門交差点を渡ると行幸通りの延長で内堀に架けられた土橋があります。江戸期にこの橋ではなく、大正後期に内堀を埋め立て新たに架設されました。石造りの欄干は見た目、ざらついた印象がありますが、触れてみるとツルツル。緻密な石組みと相まって、長い時間に磨かれた100年近く前に築かれた構造物の息吹を感じさせてくれます。

本来の和田倉橋はこの土橋の北側200mほどのところにある木橋です。皇居側の橋のたもとに残る枡形の石垣は、江戸城を守衛する門の基礎部分です。門と橋が一体となった構造だったようです。関東大震災で大きな被害を受け、1953（昭和28）年に往時の木製橋を模したコンクリート橋に改架されました。

■江戸期と明治期の面影が残る皇居外苑

橋を渡るとそこは皇太子殿下のご成婚を機に平成7年に完成した「和田倉噴水公園」です。高さ8.5mまで吹き上がる大噴水は今上天皇のご成婚を記念したものです。敷地内にはレストランもあり、都会の喧騒から逃れてゆったりとした時間を過ごすことができます。

この公園内にも江戸城の石垣が点在して残されています。表面をよくみるとうっすらと刻印が。築城に携わった各地の大名の家紋や符丁などの記号です。江戸城の遺構には数百種類もあると言われています。和田倉橋周辺はこの刻印の宝庫。ぜひ、探し出して実際に手に触れてみてください。

公園を後に、内堀通りの信号を渡るとお堀に出ます。この桔梗堀の向こう見える櫓が「桜田巽櫓」。城郭の隅角に設けられた監視と防御を目的とした隅櫓としては現存する唯一の櫓です。鉄砲や矢を射る狭間や、堀を越えてくる敵の頭上に石を見舞う「石落とし」が備えられています。



桔梗堀と桜田巽櫓

ここから左に方角を変えると、東京の真ん中とは思えない広大な視界が開けます。皇居前広場のこの一帯は、江戸期には諸大名の屋敷が軒を連ねていましたが、明治に入ると政府に上収され、樹木が植栽され広大な広場として整備されました。以降、数回にわたり整備事業が行われ、国民公園として解放され、市民の憩いの場となっています。

公園の南端に見えてくるのが「二重橋」。手前の橋が「正門石橋」、その奥に見えるのが「正門鉄橋」です。一般的に二重橋はこの二つの橋の総称とされていますが、厳密には正門鉄橋のことを指します。正門鉄橋はかつて、橋桁を支えるために中央部に台が設けられた二重構造となっていたことから、この名がつけられたと言います。

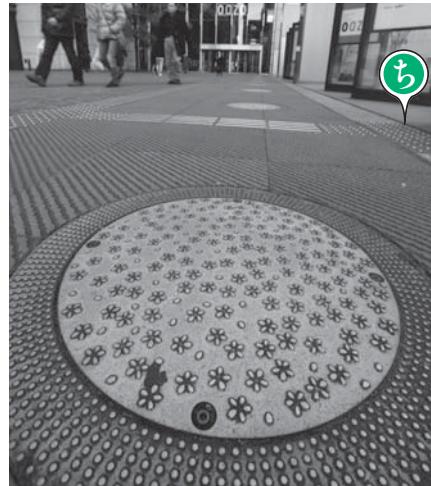
■オフィス街に併む土木遺産

再び東側に進路を取り、二重橋前、馬場先門の信号を越えて東京駅方面に向かいます。駅前にそびえるのは平成24年に竣工した超高層複合ビル「JPタワー」。旧東京中央郵便局を一部保存した低層棟の6階屋上は、眼下に東京駅を一望することができるおすすめスポットです。

東京駅を横切り、JPタワーの向かい側にあるのが複合施設の「丸の内オアゾ」です。足元の桜やトンボなどの模様が施されたマンホールがユニーク。何種類あ



一石橋



丸の内オアゾ前にあるマンホール

るのか探し回るのも楽しいですよ。

八重洲側へ線路をくぐると、そこにも土木遺構が点在しています。江戸初期、江戸城の外堀が日本橋川と分岐するポイントにかけられたのが「一石橋」です。大正期にRCアーチ橋に改架され、関東大震災でも落橋しなかった名橋ですが、昭和に入り鋼鉄橋梁となりました。今では大正期架橋当時の親柱が当時の面影を伝えています。都内最古の親柱の存在感は圧倒的です。

さらに、東京駅日本橋口の丸の内トラストタワーの裏側にも、江戸城の石垣が移設されて残されました。近代的なオフィスビルの片隅に江戸城の石垣。その調和した佇まいが、土木遺産を次世代に残す大切さを教えてくれます。



江戸城外堀の石垣